



## 霞立つ 天の川原に 君待つと い行き返るに 裳の裾濡れぬ

7月の万葉集 万葉集 巻8-1528 山上憶良  
(霞が立つ、天の川原であなたさまがいらっしゃるのを待って、川原を行ったり来たりして、裳(も:スカートのようなもの)のすそが濡れてしまいました。)

## 七夕の日に願いを込めて！

7月7日は七夕でした。あいにくの雨模様でしたが、園や学校では、子どもたちが五色の色鮮やかな短冊に様々な願い事を書いて笹や竹の葉につるしたのではないのでしょうか。

日本ではなぜ、七夕の日に願い事をするのでしょうか。七夕と言えば、1年に1回、天の川を渡って織姫と彦星が会える日です。では、なぜ年に1回、7月7日なのでしょう。

ほとんどの方は知っておられると思いますが、織姫とは、その名前の通り、秋の豊作を願う際に、神様が着る着物を織る女性のことです。織姫が一生懸命にはた織りをしているので、天の神様が牛の世話をよくする牛飼いの彦星と結婚させてくれたそうです。ただ、2人は一緒にいるのが楽しくて、ろくに仕事もせず遊ぶようになり、神様が怒って2人を天の川を挟んで引き離してしまっただという悲しい物語です。しかし、そんな織姫と彦星が哀れになった神様が年に一度、七夕の日だけ2人を合わせてあげることになりました。そのため、2人は年に1回逢える七夕の日のために頑張って仕事をするようになったのです。

余談になりますが、はた織りの機械を昔は「棚機(たなばた)」と呼んでいたのが、七夕の名前の由来になっています。

では、なぜ七夕に願い事をするのでしょうか？ここには、「乞巧奠(きこうでん)」という中国の風習が関係しています。乞巧とは、技巧を授かるよう願う、上達を願うという意味です。要するに、織姫にあやかり、はた織りや裁縫の上達を願う儀式だったそうです。笹飾りに使われるあみ飾りやひし形つなぎは、もともと布で作られた飾りだったようです。

それから、なぜ笹飾りをするようになったのかというと、竹は成長がすごく早いことから生命力の象徴でもあり、またその葉は殺菌力が強いいため、古くから魔除けとして利用されるなど、神聖なものとして扱われてきたそうです。

ところで、七夕の日に願い事をするのは、上に述べたように、本来、手習いや芸事が上手になるようお願い事をするのです。しかし、私があえてこの七夕の日に願いを込めたことは、新型コロナウイルス感染リスクの中、子どもたちの健康安全面の無事と新型コロナウイルス感染症の終息及び早期のワクチン開発です。先週末から東京では、

再び感染者が連日、100人を超え、不要不急の他県への移動は控えるようにとの要請が出ています。奈良県でも7月4日(土)には38日ぶりに感染者が出ました。経済活動が再開される中で多少の感染拡大は予想されましたが、予想以上の多さに国や都も驚愕の色を隠せない状況です。

園や学校では、「感染症にかかる衛生管理マニュアル」に基づいて、徹底した3密を避ける取組を継続するとともにドアノブや手すり等の消毒と手洗いの励行、マスクの着用の着用などこれまでと同様の対策に加えて、熱中症対策についても徹底していきたいと思っています。

とにかく、広陵町の子どもたちが、日々笑顔絶やさず健やかに成長することを願わずにはおれない七夕の日となりました。

## 消毒液をいただきました！

6月19日(金)に、第一生命奈良支社真美ヶ丘営業オフィスから、新型コロナウイルス感染症防止に向けた社会貢献活動の一環として、各小中学校で活用してほしいと消毒ジェルを寄贈していただきました。また、7月8日(水)には広陵町内で日本酒等を製造されている長龍酒造から、新型コロナウイルス感染症予防にと広陵町にアルコール消毒液を寄贈していただき、各学校・園に配送させていただきました。

消毒液が不足がちな今、特に、子どもたちにとっての感染防止の観点から、とてもありがたいことでした。学校としても



子どもたちに寄贈していただいた寄贈者の思いをしっかりと伝えるとともに子どもたちの安全安心な学校生活を送るためために大切に使用させていただきます。



## 今月の一言

人は己れに克つをもって成り、自ら愛するをもって敗るるぞ

西郷 隆盛

人は往々にして、他人に厳しく、自分に甘いものです。人生において楽をしたいという欲望は常につきまといます。

そんな時、自分に甘く楽に過ごすか、自分を律してより高い目標に向かって努力をするか、という選択でその後の人生が決まってくるのだと思います。自分に打ち勝ってこそ、成功を手に入れることができるのだと思います。